資料　No. 1-1

パブリックコメント実施結果

■意見募集期間　令和3年12月1日(水）から令和4年1月6日（木）まで

■意見提出者　　6人

■提出意見数　　32件

番号	頁	項目	意見の内容（※意見内容は提出された文言のまま記載しています。）	市の考え方	担当課
1	1	第１章 １ 策定の経緯	第１章 計画の基本的な考え方 １ 策定の経緯において、国の動向については触れられていますが、愛知県子供読書活動推進計画について全く触れられていないことが気になります。愛知県の計画は国の計画の改訂に呼応するように第四次の計画を平成３１年２月に策定しました。24ページにも県の計画のことが出てきます。日進市の第２次計画は、これに即したものと考えますのでここで県の計画策定についても触れた方がよいと考えます。	ご意見を踏まえ、Ｐ１の「1　策定の経緯」内に「また、愛知県においても平成１６年に「愛知県子供読書活動推進計画」を策定し、次いで、平成２１年９月には第二次計画、平成２６年３月には第三次計画、平成３１年２月には第四次計画が策定されています。」を追記します。	図書館
2	1	第１章 １ 策定の経緯	４ 計画の期間については、国及び県の第四次次計画の期間を勘案すると、本計画はスタートの年度が２年も遅れていることは大きな問題であると考えます。日進市が本計画をスタートさせる令和４年度は、国の第四次計画の最終年度であることから、第五次の計画策定が行われます。本市の計画策定に当たっては、本市におけるアンケート結果を国、県の調査データと比較し、本市の特徴をつかみながら策定を行うことが本来ですが、今回の策定ではそれが出来ていません。次期（第3次計画）の策定に向けてこの状況を改善するために、本計画の期間は令和４年度から令和６年度までの３年間とすべきと考えます。特に、この後で詳しく述べますが、今回のアンケート調査は前回に比べて回収率が著しく低く、本市の状況を正確に捉えているという確信が持てません。だからこそ、次のアンケート調査を少しでも早く実施するために、期間を短くした方がよいと考えます。それが難しいのであれば、「～おおむね５年間とします。」に続けて、「国、県の同計画が改定された時には見直しを検討します。」を付け加えてください。	本計画の期間は、令和４年から令和８年までのおおむね５年間としており、必要に応じて見直しを行うものと認識していますので、Ｐ１の「4 計画の期間」内に「国、県の同計画が改定された時には、見直しを検討します。」を追記します。	図書館

3	2	第２章 １日進市の子どもの読書環境の状況	第２章 現状と課題 １ 日進市の子どもの読書活動の状況については、令和3年6月から9月にかけて実施した子どもの読書活動に関するアンケート調査の結果をもとにされていますが、参考資料１ページを見ると、前回（平成27年度）調査とは回収率が大きく異なっており、例えば、高校生はわずか7.5％の回収率（前回は98.0％）となっており、回答者の傾向が偏ったものになっていないかを危惧します。そのように思う訳は、3ページの「あなたは本を読みますか？」という問いに対して、読むと回答した高校生の割合が前回より約２倍に増えているからです。この調査に回答しようと思うのは、読書に前向きな生徒であることが多いのではないかと推測したからです。高校生だけでなく、全ての調査対象において、回収率が大きく下回っており、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って調査方法が前回と大きく異なっているのであれば、そのことはここに明記しなければならないと考えます。	前回のアンケートでは対象となる学校に紙を配布し、学校内で回答してもらう方式でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行による社会状況の変化や学校におけるICT化の推進、教員の多忙化解消等を鑑み、あいち電子申請・届出システムを活用したWebアンケート方式に切り替えました。アンケート方式の変更により、ご指摘のとおり回答が読書に興味のある児童、生徒に偏ったと思われる事については否定できませんので、ご意見を踏まえ、参考資料Ｐ１に以下のとおり追記します。 （４）調査方式 あいち電子申請・届出システムを利用したWebアンケート方式 ※新型コロナウイルス感染症の流行による社会状況の変化や学校におけるICT化の推進、教員の多忙化解消等を鑑み、前回の紙による方式から変更したものです。	図書館
4	8	第２章 １日進市の子どもの読書環境の状況	P.8　「３．３歳児から５歳児の保護者の９割が、子どもが本に興味があると考えており、８割以上の保護者が月に２～３回以上子どもに本を読んであげています。特に、３歳児の保護者では毎日読んであげている割合が高くなっています。」この、四角で囲まれた文章は、現在の計画（平成２８年１１月策定）と一字一句同じ文言となっていますが、前回と今回のアンケート結果を比較すると、回答した３歳児保護者全員がわが子は本に興味があると答えているのは特筆すべきことですし、５歳児保護者も前回よりもその割合は増え、９２％以上になっています。にもかかわらず、前回と同じ９０％以上と書くのは納得がいきません。また、子どもに本を読んであげている保護者の状況については、ほぼ毎日読んであげている保護者の割合が３歳児５歳児とも増えていることは特筆すべきことであると思います。四角で囲まれた文章は、今回のアンケートの特筆すべきことをあげるべきではないでしょうか。	ご意見を踏まえ、Ｐ８の四角で囲まれた部分の「3. ３歳児から５歳児の保護者の９割が、子どもが本に興味があると考えており、８割以上の保護者が月に２～３回以上子どもに本を読んであげています。特に、３歳児の保護者では毎日読んであげている割合が高くなっています。」を「３歳児から５歳児の保護者の９割以上が、子どもが本に興味があると考えており、特に３歳児の保護者すべてが、子どもが本に興味があると回答するとともに、毎日読んであげている割合が５割以上と高くなっています。」に修正します。	図書館
5	12	第２章 ２ 日進市の子どもの読書環境の現状と課題	P.12　（１）市の施設などにおける子どもの読書環境とありますが、ここで書かれていることは、就学前の幼児のことについてなので、見出しの言葉をそれに合わせて欲しいです。 【課題】については、福祉会館で開催されるおはなし会は平日であり、参加したくてもできない（３歳、５歳は就園しているから）。参加しやすい環境づくりというのは、土曜日や日曜日に開催するよう努力する必要があると解釈されますが、本当にそう考えているのでしょうか。福祉会館とどこまで協議した上で、このように書いているのであればよいですが、どうなのでしょうか。	Ｐ１２～Ｐ２２の項目については、０歳から１８歳までの子どもを指すため、このままとします。 ご指摘を踏まえ、Ｐ１２「【現状】子ども」の次に「（未就学児）」を追記するとともに、参加しやすい日程、雰囲気づくり等について、福祉会館と連携してまいります。	図書館

6	15	第２章 ２ 日進市の子どもの読書環境の現状と課題	P.15 【現状】「ほとんどの小中学校に学級文庫があり、子どもが身近に本に触れる環境が整っています。」と書かれていますが、図10では、小学校１年生と小学校６年生の学級文庫利用は０です。なぜこのような結果となっているのか、追跡調査はされているのでしょうか。学級文庫があっても、利用されていないのであれば現状にそこまで書く必要があるのではないでしょうか。	追跡調査は実施しておりませんが、子どもが身近に本に触れる環境は整っているため、このままとさせていただくとともに、利用促進について学校と連携、協議してまいります。	図書館
7	20	第２章 ２ 日進市の子どもの読書環境の現状と課題	乳幼児に対して：ブックスタート事業が軌道に乗り日進の乳幼児は絵本・読み聞かせが十分されていることがアンケートから分った。ただコロナ下でどうなったか？　ボランテイア達のモチベーションはどうでしょう？図書館が関われるか？そんな危機下におけるあり方も今後必要になってくる。	コロナ禍で対応方法に制限が生じましたが、工夫をしながら意欲的に事業に取り組み、事業の遅れはありませんでした。この事業は、健康課が主体となって行っている事から今後のコロナの状況も踏まえ、健康課との更なる連携を図ってまいります。	図書館
8	20	―	日進市内の小中学校に出向き、絵本の読み聞かせ・語りをする「おはなしトレイン」のメンバーです。私は昔話などを子ども達に語っています。子ども達の「おはなし」に入りこむ力はすばらしいものです。主人公を自分に置きかえハラハラドキドキします。子ども達は想像力をフルに活用し楽しみます。おはなしは、子ども達の想像力を育みます。でも、小学校入学以前から文字を学び、文章を読めるようになってもそれを「文学」として楽しむことができるようになるのは難しいことだと思います。読書能力を身につけるのを待っていたら、物語りの中で想像力をフルに使い楽しめる時期が過ぎてしまうかもしれません。だから、子どもの読書活動の推進のためには、本を好きな回りの大人が読んであげることが必要だと思います。よい本、おはなしを選びそれを耳で聞いて「本って楽しい」という経験をすることで、本を好きになる子どもが多くなればと思います。	本計画の基本理念「いつもそばに本を～こころの豊かさを育もう～」を実現するためには、発達段階に応じた取り組みが必要と考えるため、今後の施策を進めていく上での参考とします。	図書館
9	23	第３章 １ 国・県の計画における基本的方針	国の「基本方針」のアに「司書、司書補の適切な配置」とあるが、日進市ではできていないが、これをどうするつもりなのでしょうか。	「第二次日進市教育振興基本計画」及び「第５次日進市生涯学習４Ｗプラン」との整合性を取りつつ、他部署と連携し検討してまいります。	図書館
10	26	第３章 ２ 日進市の計画における基本方針	国と県は４次なのに日進市は２次を検討している。その遅れをどう取り戻そうとしているのか姿勢が表れていない。（２）の「基本目標」に「踏まえる」とあるが「乗り越える」にしてはどうですか。	国や県の基本方針を根拠とし、国、県の四次計画を踏まえ、第２次計画を策定しましたので、このままとします。	図書館
11	26	第３章 ２ 日進市の計画における基本方針	地域と学校等について：学校等に保育園（所）や幼稚園を含んでいるが、地域とは、学校等に行っていない子（含む不登校児）を指すのでしょうか。この区分けは変です。（国や県に倣っているが）家庭と未就学児と学校（小中高学校）に分けた方がよいのではないでしょうか。	１８歳までの児童、生徒が集う場所（学校、放課後子ども教室、福祉会館等）を地域と考えますので、このままとします。	図書館

12	28	第４章 《基本目標１》 １ 家庭における子どもの読書活動の推進	未就園児に対して：家庭での読書環境の支援のあり方どのようにPRするか？　広報は？	福祉会館、子育て支援センターと連携し、検討してまいります。	図書館
13	30	第４章 《基本目標１》 ２ 地域における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の２「地域における…」の地域とは何を指すのか。具体的に地域はどこで、どのように読書活動をするのですか。	１８歳までの児童、生徒が集う場所（学校、放課後子ども教室、福祉会館等）を地域と考えます。多様な年代、発達段階に応じた読書活動を推進します。	図書館
14	30	第２章 ２ 日進市の子どもの読書環境の現状と課題	P.20　四角で囲まれた文章「また、子どものころに家の人から本を読んでもらった経験のある児童・生徒は、本が好きだと思っている比率が高い傾向があります。」とありますが、前回と今回の結果を比較すると、本を読んでもらった経験がない、覚えていないという児童・生徒が本が好きか嫌いかという比率の差は７ポイントしかなく、このように言い切ってよいのか悩みます。小学生中学生になって本が好きであることと、幼児期の読み聞かせを結びつける必要性が本当にあるのでしょうか。	アンケートの設問は、前回アンケートとの比較とするため、共通としましたので、このままとします。	図書館
15	30.34	第４章 《基本目標１》 ２ 地域における子どもの読書活動の推進	保育園・幼稚園児に対して：それぞれ園を通しての連携　絵本の団体貸出　読み聞かせ・ストーリーテリング・紙芝居など、図書館ボランテイアが出張実施	図書館機能を活用していただくよう働きかけるとともに、ボランティアの活動内容を積極的に外部に発信し、PRに努めてまいります。	図書館
16	30.38	第４章 《基本目標１》 ２ 地域における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の２の（２）「言語が違う子どもへの本の提供」は気になります。「多言語本の提供サービス」としてはどうでしょうか。	ご意見を踏まえ、Ｐ３０、Ｐ３８「言語が違う子どもへの本の提供」を「多言語本の提供」と修正します。	図書館
17	30.38	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の４の（９）「言語が違う子どもへの本の提供」は気になります。「多言語本の提供サービス」としてはどうでしょうか。	番号１６と同じ回答とします。	図書館
18	31	第４章 《基本目標１》 ３ 学校等における子どもの読書活動の推進	小学校での読み聞かせ PTA主導による読み聞かせも、自粛でなくなってしまった　また、授業とは違い、本に親しみを感じる、という目的ならば、自由参加のおはなしかいなどができるといい　授業のように、全員参加でお行儀よく、では、楽しめない子もいるはず 登校後、準備が整った子から、絵本ゾーンに参加できる、など小1の春の登校後の対応支援にもなる	今後の施策を進めていく上での参考とします。	図書館

19	31	第４章 《基本目標１》 ２ 地域における子どもの読書活動の推進	P.30　重点目標として挙げられている各地域における読み聞かせの実施は、市立図書館読み聞かせボランティアの派遣により行うように読めますが、読み聞かせの担い手は保育士やセンター職員、児童クラブ指導員らが主になって進めるべきものであると思います。括弧書きしてあることがどういうことを意味するのかがよくわかりません。前回の計画では「連携活用」となっていたものが、「派遣」という言葉を使うのは、図書館長がボランティアを派遣するという意味でしょうか。ボランティアは図書館の組織には入っていないものと認識していますが、敢えて派遣という言葉で表現しているのは何故でしょうか。そもそも、市立図書館読み聞かせボランティアの皆さんは、重点目標の担い手になることをどこまで了解されているのでしょうか。	活動の幅を広げたい、子どもたちと学校や保育園等でふれあいたいと希望されるボランティアが増加したこともあり、普段それぞれの地域で実施されているおはなし会とは違う人、違う物語による目新しさ、新鮮さを出していく事を目的とし、図書館から読み聞かせボランティアを派遣するものです。 Ｐ３０ 重点目標の説明「各地域において読み聞かせを実施します。（市立図書館読み聞かせボランティアの派遣）」を「市立図書館から読み聞かせボランティアを派遣して各施設と連携します。」に修正します。	図書館
20	34	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	図書館以外の場所での読み聞かせ コロナ禍、閉館があり、図書館に足を運ぶ習慣がなくなっている　図書館のおはなしの部屋は開架と隣接していて、入りやすいかと思いきや、静かにしていないと入りづらい　多少ごそごそしても気にならない場所を母たちは求めているのではないか	おはなしの部屋での開催に留まらず、屋外テラスや会議室の活用を促すため、Ｐ３４「（１）図書館における読み聞かせの充実」内に「屋外や会議室等、従来の実施場所にとらわれない様々な場所での読み聞かせを開催します。」を追記します。	図書館
21	34	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の４の「市立図書館で行う年代別の主な取組」の小学校の所に「調べ学習」を挿入してはどうでしょうか。	ご意見を踏まえ、Ｐ３４の表内、小学生の欄に「調べ学習を融合した啓発事業」を追記します。	図書館
22	34.35	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	・小学生・中学生に対して 図書館：しっかりした選書で蔵書構築。　子ども達に本を届ける人の必要性（児童担当司書の配置）　本の情報を届ける工夫は？リスト＋図書館状況などの発行はできないか？ 学校：子ども達は学校での生活時間が長い。授業・学校図書館などで、読書環境は大きいはず。幸い日進の学校は全校に運営補助員が存在している。この人達を学校司書とし、司書教諭と子ども達の間で本をつなぐ仕事ができるようにする。そして、学校司書の存在が図書館との連携をよりよくしていく。学校司書のスキルアップを図書館が担う。	市立図書館として、子どもたちが学ぶのに適切な選書を行うのはもちろん、YA（ヤングアダルト）だよりや図書館ホームページの更なる充実を図ることで、常に最新の情報を発信できるよう努めます。また、運営補助員のスキルアップやあり方に関しては、関係部署と連携し検討してまいります。	図書館
23	35	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の４の（３）にある「運営補助員」の名称を「学校司書」にしてはいかがでしょうか。	学校に配置されている運営補助員は会計年度任用職員であり、主に司書教諭が学校図書館の運営を行う際の補助を行う立場であることから、名称はこのままとします。	図書館
24	37	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の４の（６）の３行目の「不読率の改善」と１４行目の「不読率の低下」を「読書率の向上」に積極的な書き方にしてはいかがでしょうか。	ご意見を踏まえ、Ｐ３７の「不読率の改善」と「不読率の低下」を「読書率の向上」に修正します。	図書館

25	37	第４章 《基本目標１》 4 市立図書館における子どもの読書活動の推進	４章基本目標１の４の（８）に聴覚障害者用に「ＵＤトーク」を入れてください。	ご意見を踏まえ、UDトークの説明文を新たに追記するとともに、Ｐ３７の「（８）障害のある子どもの読書活動の充実」内に「また、新たな取り組みとしてUDトークの導入や活用について検討してまいります。」とUDトークの注釈を追記します。 ※UDトーク：コミュニケーションの「ＵＤ＝ユニバーサルデザイン」を支援するため、音声認識で声を文字化することで聴覚に障害がある方や外国人への自動翻訳等、障害の有無に関わらず様々なコミュニケーションをサポートするアプリケーションです。パソコンやスマートフォン、タブレット等、様々なデバイスで利用可能です。	図書館
26	37	第４章 《基本目標１》 3 学校等における子どもの読書活動の推進	P.31　重点目標に全市立小中学校における読み聞かせの実施とありますが、前ページと同じように、まずは学校の先生や司書の方に担っていただくべきではないでしょうか。その次にPTAが動いていただきたいと思います。ここにも市立図書館読み聞かせボランティアの派遣とありますが、市内の中学校での読み聞かせがどれだけ実施できているのか、学校側からのニーズや生徒からの要望がどれだけあるのか、中学校でも読み聞かせを実施することを重点目標とすべきかどうかは、検討が不十分に思います。「思春期を迎える子どもの精神を安定させ、知的好奇心をかきたてるようなテーマを厳選して、ストーリーテリングやブックトーク等を行います。」と書かれていることからも、専門性が必要であり、読み聞かせボランティアが本当に担えるのか疑問です。	番号１９と同じ考え方となります。 今後、ストーリーテリングやブックトークといった専門知識の必要な事業について、活動の幅を広げたいという希望もあるため、ボランティア養成講座を実施していくことで育成支援をしてまいります。	図書館
27	40	第４章 《基本目標2》 １ 家庭、地域、学校等相互の連携・協力	・地域住民の理解を得るために ボランテイアの立ち上げは必要。そのためには図書館を知ってもらうことが必要。市の広報で毎回、本4冊と行事案内が掲載されているが情報として少ない。また、ネットでホームページを見ればある程度の雰囲気は分ると思うが、いつもホームページを見ている人はどれだけだろう？「図書館たより」などの発行を望みたい。年4回ぐらいで。広報に綴じ込みで全戸配布はどうだろう。	今後の施策を進めていく上での参考とします。	図書館
28	40.41	第４章 《基本目標2》 子どもが読書に親しむ機会を提供できる連携・協力体制の整備	基本目標2の 家庭、地域、学校の連携は読書に関わらず、必要と感じます	家庭、地域、学校等それぞれの連携が大切と考えています。	図書館
29	―	―	読み聞かせボランティアの担い手とおはなしかいを利用する子育て世代の繋ぎめ、繋ぐ活動も考える必要があると思います　互いに知っているから参加しやすい　逆に知らないから参加しづらい	読み手と受け手が互いに関わる事が出来るような事業の進め方を目指します。	図書館

30	―	―	中高生の読書離れ ICT推進と差別化した本（紙）の良さを伝えることが必要　タブレットで調べられることと本ならではなこと　マンガもヨシとする、など	電子媒体と紙媒体、どちらにも良さがあり、どちらも大切なものと考えています。 市立図書館において、コミック本は収集の対象としていませんが、物事を学ぶ際に「漫画」という手法を用いる事は興味を引いたり、学ぶ意欲をかきたてる等、有用な手段のひとつと考えます。	図書館
31	―	第４章 《基本目標１》 ４ 市立図書館における子どもの読書活動の推進	P.37　（６）子どもの読書活動にかかる新たな取組の研究に重点目標として、ビブリオバトルの開催も加えてください。一年に複数回開催することも検討いただきたいです。また、小学校、中学校、高校で実施できるよう市立図書館が開催ノウハウをサポートすることも加えていただきたいです。	ビブリオバトルはすでに4回開催済であり、一定の目標を達成したため、そのままといたしますが、啓発は引き続き取り組んでまいります。	図書館
32	―	―	市では、ブックスタート、図書館でのおはなし会などで幼少期から保護者とともに本に親しめるような取り組みがなされていると思う。しかし、小学校高学年以降、中、高生にかけて読書量が減っており、中、高校生については図書館を自習のための場所として使う学生が多いと思う。ボランティアとして、私自身図書館でのストーリーテリングのおはなし会や小学校へ出向いての絵本の読み聞かせをする活動をさせていただいているが、図書館へ見学、もしくは職場体験に訪れるヤングアダルトの子どもたちにも、ぜひ読み書かせやおはなし会をさせていただけると少しでも読書の楽しみを感じてもらえるのではないかと思う。	今後の施策を進めていく上での参考とします。	図書館